

2026年2月6日(金)

報道関係者各位

オリザ油化株式会社

## 紫茶エキス／紫茶葉 アフリカ支援プロジェクト

### 2025年で丸6年を迎えました。

オリザ油化株式会社(本社:愛知県一宮市、代表取締役:村井弘道、以下「オリザ油化」)が、2020年度から開始した紫茶エキス／紫茶葉の売上的一部分をアフリカへ支援する取り組みも、2025年で丸6年を迎えました。

#### ■ 2025年で丸6年！2026年からは7年目に入ります。

##### 国際NGOプラン・インターナショナルへ、紫茶エキス／紫茶葉の売上的一部分を寄付

子どもの権利を推進し、貧困や差別のない社会を実現するために活動する国際NGOプラン・インターナショナルに、今年も売上的一部分を寄付させていただくことができました。本取り組みは、おかげ様で多くの企業様に賛同いただき、2025年度で丸6年となりました。2025年は、紫茶エキス／紫茶葉の売上も過去最高となり、多くをアフリカへ還元することができました。皆さまの賛同に心から感謝申しあげます。

紫茶エキス／紫茶葉をさらに多くのお客様にご使用いただけるよう、オリザ油化としても原料のデータ拡充やPR活動を積極的に行ってまいりますので、引き続き皆さまのご愛顧をお願い申し上げます。

(支援しているプロジェクトはHPをご覧ください:<https://www.oryza.co.jp/company/sdgs/project/>)



紫茶葉

#### ■ 最新データ①:GLP-1 分泌促進作用／クレアチンとの相乗効果(NO 産生促進)を確認！

最近の新データとしては、紫茶エキスで話題の GLP-1 分泌促進作用やクレアチンとの相乗効果として NO 産生促進作用を確認。ダイエットや運動パフォーマンス向上分野での提案をさらに強化していきます。



## NO産生促進作用（クレアチンとの相乗効果）特許出願中

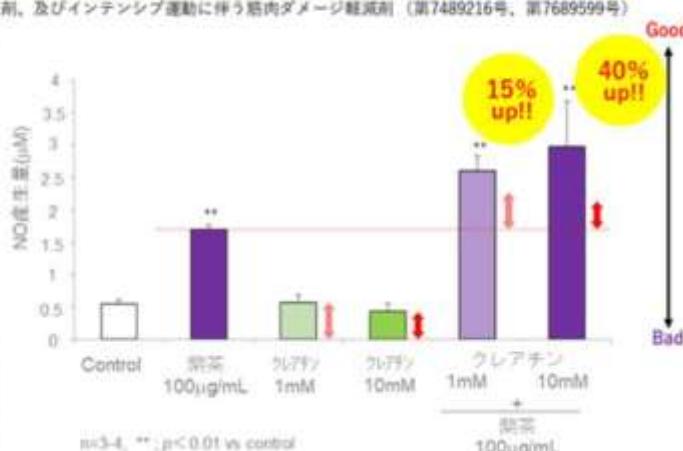
特許取得済：NO産生促進剤、下肢筋肉における瞬発力向上剤、及びインテンシブ運動に伴う筋肉ダメージ軽減剤（第7489216号、第7689599号）  
AMPK活性化剤（第6933781号、US1478495号）



## NO産生促進作用

ヒト臍帯静脈内皮細胞（H U V E C）を用いた試験で、紫茶エキスまたはクレアチンを添加して培養した際の、NO産生量を定量しました。さらに紫茶エキス（100 µg/mL）と、クレアチン（1または10mM）を組み合わせた際の相乗作用を評価しました。

～組み合わせ比率～  
紫茶エキス：クレアチン=1:13または1:13

紫茶エキス×クレアチンにより  
NO産生の相乗的な増加を確認

## ■ 最新データ②:UVB から細胞を守る紫外線防御作用の基礎データを取得！！

さらに、美容分野では UVA に加え UVB においても紫外線防御作用について基礎データを取得。塗る日焼け止め製品や“飲む日焼け止め”製品向けとして提案を強化しており、採用が広がっています。

## 紫茶エキスのUVBに対する防御作用 特許出願中



## UVB防御作用

表皮に強く作用するUVBは、表皮角化細胞にダメージを与え、細胞死を誘発します。  
過剰な細胞死は、炎症反応を引き起こし、紅斑やシミの発生につながります。

## UVB(夏の紫外線量30分に相当)照射後



黒い部分は生きている表皮角化細胞。  
紫茶エキスの特有成分GHGは細胞死を防ぐ

## UVB誘発性細胞死抑制率



→ UVB誘発性細胞死を抑制 紅斑・炎症・シミを防ぐ

## ■ 紫茶エキス／紫茶葉を通じたこれらの活動をケニア大使館も支援

オリザの紫茶を通じた SDGs の取り組みはケニア大使館も支援してくださっています。「紫茶は日本初の SDGs 対応素材」であることを公式レターで証明＆活動をサポートいただいている。

2026 年度も、サステナブルな紫茶の魅力を広く伝え、皆さまの健康・美容に寄与できることを目指すとともに、アフリカへの支援につなげていきます。

